

氏名	Aduayom-Ahego Akouetevi		
学位の種類	博士（保健学）		
学位記番号	甲第40号		
学位授与の日付	2018年3月15日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
学位論文題目	Challenges in Prosthetics and Orthotics Education in Sub-Saharan Africa Francophone Country Togo サハラ南部のフランス語圏トーゴにおける義肢装具教育の課題		
論文審査員	主査	新潟医療福祉大学	教授 江原義弘
	副査	新潟医療福祉大学	教授 久保雅義
	副査	新潟医療福祉大学	教授 相馬俊雄

論文内容の要旨

世界中の自立支援を必要とする人々は、2050年までに20億人を超え、そのうちの10人に1人しか自立支援製品にアクセスできないと予測されている。現在、世界中に住む自立支援を必要とする人々6億5,000万人のうち、80%が発展途上国に住んでおり、サハラ以南アフリカでは、障がい者の人口は7,800万人を超えている。サハラ以南アフリカではリハビリ施設がなく、高価であるため、患者は義足を購入することが困難であることが分かっている。発展途上国では義肢装具に関連するコースを提供している大学は非常に少ない。サハラ以南のアフリカ諸国ではリハビリテーションに関する研究は少ししか出版されていない。アフリカでは義肢装具の分野における持続可能な教育と実践を維持するために、現在の研修施設での教育システムについて調査することが重要である。そこでフランス系の国トーゴ共和国における義肢装具教育の現状を把握することとした。研究の内容は現場の義肢装具士と現在の学生を対象としてネット上のアンケートに答えていただくものであった。アンケートはフランス語で記述し、その内容はガーナにおける義肢装具実践の現状と教育上の問題点を問うものであった。その結果アフリカにおいて義肢装具の需要はあるものの、十分には普及していない現状が明らかになった。義肢装具士が不足しているためであり、リハビリサービスを発展させるためには、必要な人々に義足を提供する試みが実践されなければならない。同時に研究施設や教育システムをアップデートすることが重要である。

キーワード：義肢装具, 教育, トーゴ

論文審査結果の要旨

本論文は、トーゴ共和国における義肢装具分野の教育と研究の現状についてアンケート調査を行って今後の発展のためには何か必要なのかを調査した研究である。

著者の研究動機はいかにしたらアフリカでの義肢装具教育のレベルを高められるかにある。そのために来日し、義肢関連のバイオメカニクス研究と並行してアフリカでの義肢装具教育の現状を調査することとした。世界中の自立支援を必要とする人々は、2050年までに20億人を超え、そのうちの10人に1人しか自立支援製品にアクセスできないと予測されている。現在、世界中に住む自立支援を必要とする人々6億5,000万人のうち、80%が発展途上国に住んでおり、サハラ以南アフリカでは、障がい者の人口は7,800万人を超えている。サハラ以南アフリカではリハビリ施設がなく、高価であるため、患者は義足を購入することが困難であることが分かっている。発展途上国では義肢装具に関連するコースを提供している大学は非常に少ない。サハラ以南のアフリカ諸国ではリハビリテーションに関する研究は少ししか出版されていない。アフリカでは義肢装具の分野における持続可能な教育と実践を維持するために、現在の研修施設での教育システムについて調査することが重要である。そこでフランス系の国トーゴ共和国における義肢装具教育の現状を把握することとした。アフリカでのこの分野の発展のためには先進諸外国からの応援が必要であり、そのためにはより多くの方々にアフリカの現状を知ってもらうことが重要である。この目的にとって本研究は最初の一步として重要と思われ評価できる。

研究の内容は現場の義肢装具士と現在の学生を対象としてネット上のアンケートに答えていただくものであった。アンケートはフランス語で記述し、その内容はガーナにおける義肢装具実践の現状と教育上の問題点を問うものであった。その結果アフリカにおいて義肢装具の需要はあるものの、十分には普及していない現状が明らかになった。義肢装具士が不足しているためであり、リハビリサービスを発展させるためには、必要な人々に義足を提供する試みが実践されなければならない。同時に研究施設や教育システムをアップグレードすることが重要である。先進諸国にあっては、アンケート調査はそれほど困難なものではない。郵便はもちろんインターネットが発達し、アンケート用紙を配布するのも回収するのも取り立てて障害となるものはない。すなわち各種のネットワークが当然のものとして存在するからである。しかしアフリカ諸国ではその基盤そのものが確立していない。そこで著者は現地におもむき、直接アンケートを依頼して回収率を高めた。この点は高く評価できる。

参考論文に示されているように同様なアンケートを隣国のガーナでも実施している。さらには未発表であるが、日本での義肢装具士養成校の学生を対象とした（日本語での）アンケートも実施済みであり、これによりアフリカでのガーナとの比較や日本の現状との比較が可能であり発展性が大いに期待できる。

本論文はより多くの方に読まれることが重要なので英語で書かれており、また掲載雑誌は著名な電子ジャーナルであり、この点でもより多くの方の目に触れることが期待できる。このように積極的に世界に発信することで、これを読んでくれた方々からの情報も集まりやすくなり、加速度的に情報のネットワークが構築されるものと期待される。

著者の研究は現在、トーゴ、ガーナ、日本の3か国にすぎない。アフリカだけでも56の国があり、状況は千差万別であろう。より多くの実情を調査し、発信することが今後の課題である。同時に、調査によって示されているように、アフリカでは特に教育が遅れている。義肢装具のバイオメカニクスの分野で言えば、良い教科書が手に入りにくい、動作分析システムなどより安価な教育機材の必要性などがクローズアップされている。これらに対する対応も大きな課題である。これらの課題に対して方向性を示すものとして本研究は大変優れたものと評価できる。

以上のことから、審査委員会は本論文を博士論文に相応しいと認める。